

# 続・扉を開いて

## 八代・サポネットの取り組み

「薬に目を閉じて5歳の時のあなたをイメージして下さい。その時どんな様子だったか、隣の人と語り合ってください」

八代不登校・ひきこもりサポネットネットワーク(サポネット)が開く「カウンセリングマインド養成初級講座」。参加した約20人は講師で心理カウンセラーの清原加代子さん(53)の指示を受けながら、カウンセリングの基本を学ぶ。この日は心の状態と体の関係を学ぶことが目的だった。

清原さんによると、人間には心が傷ついた時に自ら回復する力があるが、その方法を知らない人が多い。

## 問題対応できる人材育成

講座では心理学を通してその方法を学ぶ。「大切なのは、カウンセラー自身には、不登校・ひきこもり

# 実効性ある 連携目指す

自分を肯定できるようになること」と清原さん。

初級から上級までの講座の受講生を「教育サポネットカウンセラー」に認定し、教育委員会などに紹介することも視野に入れている。

こうした取り組みは、サポネットが単に相談場所と

なり、家庭、学校、地域の連絡体制を整えることが狙いなのではなく、各地域の問題に対応できる人材を育成することで、より実効性のある結びつきを作り上げることを目指している。

や、多忙な親に遠慮して意思疎通できなくなった子どもなど、中光さんが12年にわたり対応した事例を紹介。それらから▽期待通りの成果がある時しか親



「カウンセリングマインド養成講座」(2月、八代市役所千丁支所で)

## 家族や教職員、民生委員など 受講者は様々

よう提言する。

講座は設立以来、計15回開いており、延べ約500人が参加している。受講対象が、当事者の家族、幼稚園や学校の教職員、民生委員、PTA役員など幅広いのが特徴となっている。

清原さんと中光さんはサポネットで直接相談にも当たる。2人のもとには不登校生徒の親と担任教諭、または担任教諭と養護教諭と一緒に訪れ、問題解決に向かったケースもある。中光さんは「ネットワークは実動し始めているようだ」と手応えを感じている。

サポネット事務局長の中島昭二さんは「不登校やひきこもりは、個々では対応できない場合もある。だから本人や家族はもちろんのこと、教職員や学校も支える体制が必要なのです」と、自らの教員体験に基づきこう訴える。

三頁才田 一43へ。 2人連れが投げ釣りでキス 橋本スミエ(96)川